

ロシア 東欧 経済速報

社団法人 ロシア東欧貿易会 〒104-0033 東京都中央区新川1-2-12 金山ビル Tel.(03)3551-6218
ロシア東欧経済研究所 <http://www.rotobo.or.jp> [年間購読料・送料共前納 18,000円]

2000年(平成12年)4月15日 No. 1156

目次

ロシア石油業界の現状①	坂口 泉 1
経済速報No.1155の補足	8
キーパーソン	9
ロシア大統領選挙の確定投票結果	9
C I S 諸国通貨の最新為替レート	10

ロシア石油業界の現状①

—1999年の動きを中心に—

はじめに 1999年のロシア石油業界では、ルーブルの切り下げの影響による輸出効率の向上や石油の国際価格の高騰といった追い風が吹いた。しかし、そのような追い風も、各石油会社の設備投資意欲を促進するまでには至らず、1999年もロシア石油業界は、慢性的投資不足という深刻な状況から脱却することができなかった。しかし、明るい兆しもあった。1999年7月には、サハリンⅡで商業生産が開始されたし、年末には、PS法制定後初のPS契約が締結された。投資活性化にむけての第一歩がしるされたとの印象が強い。依然として状況は厳しいものの、前方に光明がちらつき始めた1年であったといえる。

以下では、ロシア石油業界が抱える慢性的疾患(投資不足)とその疾患を治癒させる可能性を秘めたPS制度下での鉱床開発(あるいは油田リハビリ)をめぐる動きを中心に、ロシア石油業界の現状をご報告したい。

1. 原油の生産

(1) 総生産量の推移

ロシアの原油生産量の推移は以下の第1表のとおりである。この表からもわかる通り、